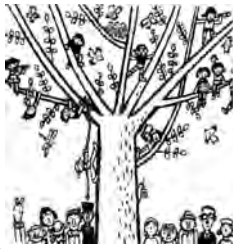

九条の樹

100号
2023年4月発行

発行：東久留米「九条の会」　連絡先：TEL 042-473-9489（鈴木）
http://higashikurume-9.net/　メール：higashikurume9j@gmail.com

大軍拡、敵基地攻撃に反対する請願を提出

東久留米九条の会は三月定例市議会に「大軍拡、敵基地攻撃に反対する意見書提出を求める請願」を提出しました。

請願提出に先立って、九条の会事務局3名が市議会各会派を訪問して説明、賛同を求めました。賛否はあるものの市議会議員の皆さんと話し合い、意見交換することができました。

3月13日、総務文教委員会で討議がおこなわれ共産党の村山、市民自治の間宮、無所属の中野各議員が請願に賛成の意見を述べました。ハートネットの宮川、公明党の阿部、自民クラブの野島各議員が反対の意見を述べました。賛否同数となったため委員長の公明党沢田議員の決済で請願は不採択となりました。27日、本会議で全議員の採択の結果賛成少数で不採択となりました。賛成は共産党4名、市民自治の青木、間宮、無所属の中野各市議。反対は自民クラブ5名、公明党5名、立憲梶井、維新佐藤、無所属宮川、引間各議員です。

今回の議会ではほかに「中学校給食実態調査」「学校給食無償化」「35人以下学級」「子どもの医療費助成拡充」「公立保育園存続」「消費税インボイス制度中止」などを求める請願が市民から出されていましたが、いずれも否決されています。

軍拡は戦争への道・税金は国民生活に！

市内11か所いっせいスタンディング宣伝

3月19日（日）「戦争はイヤ！声をあげよう実行委員会」では、市内11か所でいっせいに抗議の声を上げ、スタンディング宣伝を行いました。

◉防衛予算43兆円。一発5億円するといわれるトマホーク400発購入。

◉与那国島、石垣島、沖縄本島、奄美大島島へのミサイル基地建設、地下基地強化。

◉全国各地に弾薬庫の建設、横田基地への米軍司令部移転の動きなど。

戦争への準備が着々と進められています。戦争だけは絶対にやめさせましょう。

当日の写真を4面に掲載。

暮らしを脅かす岸田大軍拡

中野晃一さん講演 ①

2月23日東久留米市生涯学習センターで行われた「くらしを守る革新東久留米の会」主催の講演会の要旨です。

奇妙な状況でことが推移しています。「なんでこんなことが起こるのか」「なんでこれが大騒ぎにならないのか」「自分がおかしいのか、社会がおかしいのか」、とも思ってしまいます。

安倍さんのようにわかりやすい政治家と違って、岸田さんは何となく信念のないような、事の重大さが、本人も分かってないのじゃないか。そういう中で歴史的な大転換が行われている。そういうことで社会の反応がない中で、油断しているとこのまま流されていくことが怖い。そういう焦りを感じている方も多いのではないでしょうか。

憲法もないような感じです。ちょっと考えればわかることですが、現在の状況でもこれだけ民意を無視している政府が、いざ戦争になったら国民のことを考え、守るでしょうか。

岸田さんは魂（たましい）を売ったというより、売るべき魂を持たない。権力の座にあってそれを維持することしか考えていない。

気が滅入るような話から始めましたが、これを、どう打ち破るのか。相手の正体を見極めることから始めましょう。

集団安全保障と軍事同盟

冷戦後の安全保障というと二つあります。一つは集団安全保障です。「集団的自衛権」のことではありません。国連を中心に、多国家による「集団的安全保障」でアセアン（東南アジア協力機構）、ＥＵなどもその側面があります。敵を作らず話し合いで解決していくものです。

これはもとをただせば、第一次世界大戦後にできた国際連盟です。大戦はヨーロッパ中心の戦争でした。文明が一番進んでいたはずのヨーロッパで人口がひと世代ごそっといなくなるほどの戦争でした。これはもうやってはいけないということで、ヨーロッパで起こった戦争だからヨーロッパの国々を中心に集まって、紛争は話し合いで解決しようという枠組みを作りました。植民地も民族自決の考えで解決していこうというような理想主義的な平和外交の機運が生まれました。集団安全保障の考えも生まれたのですが、日本が満州侵略して脱退したり、ナチスドイツが台頭してきたりで、集団安全保障の枠組みがうまく働かなかったのです。それで生まれたのが、先祖返りというか、もう一つの安全保障政策のやり方で「同盟」という考え方です。敵を作って同盟する、ＮＡＴＯや日米安保条約です。

冷戦が終わりワルシャワ条約機構もなくなり、ＮＡＴＯもいらないという意見もありましたが、それが軍備の厄介なところで、軍人は職を失う、軍需産業は潤わなくなる、軍備の怖いところです。麻薬じゃないですが依存度が高くなる。軍事研究もそうです。軍産複合体です。同

盟というものは仮想敵をある種の接着剤にしてほかの国と一緒に安全を守ろうとして、徒党を組むということです。治安が悪いから○○組に入るみたいなものです。

治安が悪くて警察も機能していないとき、どっちかのやくざの組に入るようなものです。冷静に考えるとそれで安全でしょうか。親分が「やれ！」といったら、鉄砲玉みたいに使われるかもしれません。同盟とはそういうものです。

国連中心から日米同盟へ

実際は戦後の日本は集団安全保障と同盟の考え方の両方をやってきました。日米安保の下でも、国連中心主義の動きもありました。ＰＫＯ活動参加などです。また自民党も参加する政権のとき河野談話、村山談話を出してアジアの国と和解、協力していこうという試みもしました。自民党の穏健保守のイニシアチブがあった戦後初めてのアジア外交でしたが、90年代半ばまで、後半から壊れます。２００年代に入ると小泉さんは日米関係最重視、靖国参拝、イラク戦争に協力、などにシフトしていきます。90年代後半にすでに日本会議ができたり、新しい歴史教科書を作る会や右派の反攻が始まります。アジア外交を多少ともまともにやろうとしたことに対し逆切れし「日本を売るようなことをするな」など当時二期目の国会議員だった安倍さんたちが激怒して反逆に出てきました。

国連中心主義は当初アメリカもやろうとしていたのですが、クリントン政権後半からアメリカを中心とした同盟のほうへシフトし始めます。日本でもアメリカに置き去りにされたら困る、という反攻が起きます。

日本がアジアの国々と対等の立場で話し合い、自分たちがやった悪いことは認めて謝罪し和解していこうというのは「屈辱的だ」「日本を売る」と考える人たちが「これでアメリカがいなくなったら、北朝鮮や韓国、中国は生意気になって言うことをきかなくなる」ということで、アメリカにすがってとどまってもらいたい。「同盟置き去り論」といいますが、彼らの論理では冷戦はアジアでは終わっていない、アメリカがいてくれないと安定が壊れる。そのために日本はこれだけやりますよと示しだし、今につながる転換がここで始まっているともいえます。

日米安全保障共同宣言１９９６年、新ガイドライン等ずらっとありますが、憲法９条の縛りがあってできないとなっていたものが、新時代の日米安保同盟を基軸にしていくということで取り払われます。それまでは日米でも貿易摩擦や矛盾もあったのですが、小泉政権以来経済でも軍事でも日米一体化が言われそういう転換が90年代後半から起こりました。小泉さんは退任間近ブッシュ大統領と会い、「日米関係が緊密にうまくいっていれば他はついてくる」と言ったのです。近隣諸国との外交をやらず、アメリカの方しか向いてない、という今につながる路線がこのころから進んでいったと思います。

民主党政権のときの鳩山さんは日米が対等でとか、辺野古移設とか主張しましたが、うまくいかなかった。原子力村といいますが日米安保村もあって、外務省内部からアメリカ大使館に民主党政権の言うことは外務省の立場とは違うと注進するものも出ました。

（つづく　文責事務局）

↖北口・西口→
←東口

3・19
市内11か所いっせい
スタンディング宣伝

←クルネ前
イオン前→

←オザム前
ヨーカドー前↘
ヤオコー前↙
下右・上の原
下左・滝山団地センター